

## マーケットの動き (2024年4月8日～4月12日)

先週の国内債券市場は、前週末比で金利は上昇しました（債券価格は下落）。

前週末の植田日銀総裁のインタビュー記事において追加利上げの可能性について示唆されたことなどをを受け、週初から金利上昇圧力がかかりました。10日発表の米国CPI（消費者物価指数）の上振れを受け米国長期金利が上昇すると、国内長期金利は一時2023年11月以来の水準まで上昇しました。

クレジット市場は、引き続き堅調な需給がみられました。

## 投資環境見通し (2024年4月)

## 国内長期金利はレンジ内での動き

日銀は「物価と賃金上昇の好循環が確認できた」として、3月の金融政策決定会合でマイナス金利政策を解除するとともに、イールドカーブ・コントロール（長短金利操作）や上場投資信託（ETF）などリスク資産の買い入れ終了も決めました。日銀は引き続き緩和的な金融環境を継続するとみられますが、投資家の間では追加利上げに対する関心が高まることも予想されることから、国内長期金利は当面レンジ内で推移するとみています。

	4月12日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（日本、%） （変動幅）	0.84	0.07	0.07	0.09	0.38
NOMURA-BPI総合 （騰落率）	362.58	▲0.85%	▲0.78%	▲0.74%	▲2.74%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

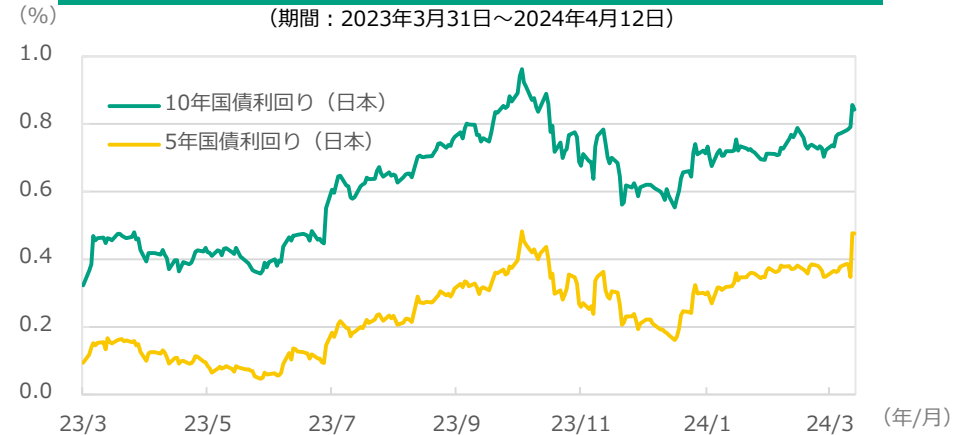
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

[https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload\\_pdf/202404\\_outlook.pdf](https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202404_outlook.pdf)

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

## 日本国債利回りの推移

（期間：2023年3月31日～2024年4月12日）



## NOMURA-BPI総合指数の推移

（期間：2023年3月31日～2024年4月12日）



※2023年3月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成